

ジオパークガイド養成講座２０２０ ８コマ目 受講者回答集

設問２ 「三好ジオパーク構想（三好市）が現在抱える問題や課題。
解決するために自分ができること。」

受講者 1

香川県在住のため、現地の詳細な取り組みや状況については、あまり詳しくないのですが、今回の講座や普段取り組んでいる中において感じていることを記述します。

三好に限らず、ジオパークについて最も強く感じる課題は、ジオパークの魅力の見せ方です。私は10年以上森のガイドなどをしてきました。正直に申し上げると森の土台となる「ジオ」についてはほとんど興味がありませんでした。ブラタモリなどが人気になっていることも薄々知ってはいましたが、「ジオはマニアな人の楽しみ」というイメージを持っていました。

ジオに興味を抱くきっかけとなったのは、2年ほど前に香川大学の長谷川先生のジオツアーを仕事で取材したことです。石の名前などはほとんど知りませんでしたので、どれだけ理解できて楽しめるのか不安でしたが、大変おもしろく「もっと知りたい」と思いました。私にとってのジオツアーの面白さが「推理小説のように風景や名物などとのつながりを解き明かす」ことでした。

現在の教育システムや内容の問題もあると思うのですが、地学については基本的に「暗記科目」扱いされていることが多いのではないのでしょうか。その結果、「ジオ」、「地学」などの単語が出ると多くの人々から「難しそう」、「私には無理」と敬遠される結果につながっているように感じます。実際に私がそうでした。

一方で、ジオの面白さを知っている方々の中には、「ジオ」や「専門性」をあまりにも前面に打ち出して、せっかく興味をもって参加した人々を辟易させてしまったり、興味を失わせている例も少なくないと感じています。7回目の講座の下村さんのスライドにも、「ジオジオしない」といった趣旨のことが書かれていたのは印象的でした。

今後、このような課題に対して、ジオという概念や言葉は大切にしつつも、それらを錦の御旗にすることなく、一般市民の目線で楽しさ・魅力を伝えるワードやガイドの心構えが大変重要になると考えています。私はガイドを生業の一つにしていますので、そのような観点でツアー造成や告知内容を練り上げていきたいと考えています。

受講者 2

他のジオパーク同様、三好ジオパークも、①運営組織の体制、予算、担当者の処遇、②サイトの保全と活用のバランス、③ガイドの人材確保・育成、報酬などが課題としてあげられるでしょう。そして、こうした課題の解決策とも大きく関係するのが④収益化であると考えます。

三好市をはじめ多くの地方都市は人口減少と高齢化の進展によって税収が増えず、その一方で医療や社会福祉への支出は年々増加するという状況に置かれています。そうした中でジオパーク構想に対して、必要な予算を毎年毎年継続的に確保することが難しくなっていくことが予想されます。つまり組織運営、サイトの保全、人材育成などが難しくなっていくということです。こうした課題はジオパークを収益化することによって大きく改善することができると思います。

収益化の例としてガイドを例にあげると、退職後のボランティア活動的な（ご厚意による）ものに依存するのではなく、ガイド料金をお客様に支払っていただく価値のあるガイディングを提供し、ガイド報酬を確保することで、ジオパークガイドが若者にも魅力のある仕事でなければならないと思います。またサイトからの収益としては、サイトの保全を行いつつお客様が楽しめるような施設を整備し、お客様が十分満足して施設の利用料を支払っていただけるという姿が理想的です。

こうした課題は全国のジオパーク共通のものだと考えられるので、日本ジオパークネットワークにおいて対策の検討と具体的な解決策の提供がなされるよう働きかけたところです。（すでに取り組まれているかもしれませんが。）

通訳ガイドの立場としてできることは限られていると思いますが、私自身ができることとして、訪日外国人観光客に提案するツアーの一つとしてジオパークツアーを積極的に取り上げたいと思います。そのために三好ジオパーク構想への理解を深め、魅力あるツアーコンテンツの造成に取り組みたいです。

受講者 3

今までの講義を受けてきた印象としては、U N E S C O 世界ジオパークになる必要条件（天然資源、地質、気候、教育、科学、文化、持続可能な開発、防災）は全て満たしていると思います。今後のマーケティング的な発信、アプローチをどのようにしていくかが必要だと思います。

残念ながら7コマ目のズーム会議には参加できませんでしたが、録画配信を見て、北海道「三笠ジオパーク」のテクノロジーを駆使したプレゼンテーションに感動しました。今の時勢にあった素晴らしいアプローチだと思います。今の若い世代に継承していくためにも、テクノロジーを駆使した、斬新なアプローチが必須だと思います。

私の長女は S N S を駆使したデジタル・マーケティングを海外で担当しておりました。彼女との話は、まさに私の理解するマーケティング戦略の常識とは全くかけ離れたものでした。しかしながら、これらは今の時勢にあったもので、これからは古い概念に固執せず新しいものを取り入れていく必要性を再認識した次第です。

受講者 4

三好市ジオパーク構想においては、ジオパークとは何か？やジオサイト、ジオコースが掲載されている。その課題としては、「暗いイメージ」があるということではないだろうか？

先日開催された「インタープリテーションガイド研修」では、まず、案内人や担当者がジオパーク自体を大切にし、楽しんでいると感じた。自身で楽しんでいるイメージが伝わり、その結果として、「音を効果的に使う」「五感をフルに使ったツアー」「むずかしい言葉を使わない説明」「参加者と同じ目線」「分かりやすい言葉」などが必然的に創られてきたと感じる。

音や臭いを効果的に使い、体感させること、すなわち「五感をフルに使ったツアー」は参加者にとっては非常に魅力的であり、記憶に残る。

また、難しい言葉を使わない説明、参加者と同じ目線、ガイドを含め、「参加者が安全で楽しめるツアー」は子どもから大人まで参加しやすい。

このようなエッセンスを取り入れ、これらをシンプルに伝える内容を盛り込んでいけば明るい構想になっていくのではないかと感じる。

また、研修の中ではジオツアー企画において、

- ① メッセージがある（すごいなあ）
- ② 構成されている（ストーリーがある）
- ③ 関連がある（参加者と関連がある）
- ④ 楽しい（体験・触れる・臭う）

をコンセプトとしているとのことに感銘を受けた。

ジオパーク構想をまず、少しでも住民に理解してもらうためには、前述されているコンセプトを持ったジオツアーができるように少しでもサポートできるなら実践したい。

受講者 5

三好ジオパーク構想に限らず、ジオパークの知名度が低いのではないかと思います。それがジオパークが市民権を持たないことにつながっているのでしょう。それを解決するためにすでに行政の方でも進められているのが、情報を発信することです。三好市を訪れた人たちがインスタやブログで地域の情報を発信することで、それを見て、三好市に魅力を感じた方が実際に訪れるという流れです。わたしも情報を発信することだったらなんとかできるかもしれないと思っています。私の場合はネットを利用するのではなく、紙媒体を使ったみたいです。実は自身のルーツにある山城町下名での昔の暮らしや地域に伝わる伝説などを記録したものを作成したいと以前から考えていましたが、いまだに実行できていません。何とか作ってみたいものです。

受講者 6

三好ジオパーク構想としては、先ず構想の文字がなくなることが一番で、現在三好ジオパークになるため活動されていると思う。

三好ジオパークになったとして、「何を目的として三好ジオパークになったのか」が一番大事である。

ジオパークになるまでは「なんとしてもジオパークに登録してもらおう」と関係者が力を入れて頑張るが、登録された後、関係者の力が弱まる可能性がある。

だけど本当に力を入れて継続させるには、登録後の取り組み方だと思われる。目的がはっきりしていないと、なんとなくうやむやになり、尻すぼみになる恐れがある。

三好ジオの目的は何か、はっきり把握していないが、私が考えるのは、登録したことにより、地域の人たちにとってプラスになる、経済面もあるが精神面においても。例えば、自分の住んでいる地域の良さがわかり、そこに住むことに誇りが持てる、又、古い文化・ものを大切に作る心を育む、住む地形の特質を理解し災害に備え、防災に役立てる等、

観光で観光客も大事だが、一番はそこに住む人である。その為のジオパーク登録であってほしい。

私に何ができるのだろうか？

私は香川県に住んでいる。その為直接的にはあまり協力はできない。ただ、香川県でも「讃岐ジオパーク構想」があり、準備委員会が立ち上がっている。

これらを通じて情報共有、意見交換等の協力はお互いにできるのではないかと思われる。

受講者 7

問題 & 課題（英語ガイドの観点から）

- 1) いかに三好市のジオパークを全国・世界へ発信して、出来るだけ多くの人に知ってもらえるか。
- 2) アクセスの課題：東京、大阪といった大都市や多くの観光客が訪れる主要観光地から離れた場所にある三好市に訪れてもらえるか。
- 3) ジオパークの保全・管理
- 4) 地元住民へのジオパーク構想の同意 & 啓蒙 & 活動への参加促進（ガイド育成）
- 5) オーバーツーリズムへの対処（自然破壊、地元住民・店舗への配慮、特にジオサイトでの来訪者の安全確保）
- 6) バリアフリー：高齢者、体の不自由な方への配慮
- 7) 外国人の受け入れ態勢の準備

解決策（私自身がというより一般的な解決策の提案）

- 1) 大きなメディアで取り上げて特集を組んでもらい、視聴率の高い TV 番組で放送してもらうだけでなく、今は個人でも SNS で世界中に拡散出来る世の中なので、（すみません私自身は SNS は全くしておりません）インスタ映えあるいはパワースポットの場所の地図を作ってネットで配信。若い人たちを呼び寄せて SNS で発信してもらう。あるいはアニメーターに三好市を舞台にしたアニメの聖地を作ってもらう。
- 2) アクセスの課題の解決策は難しいですが、外国人富裕層で現代アートのお好きな方々はよく直島に行かれます。その方々がそのまま岡山に戻らず、四国高松方面に来てくだされば、アクセスはそれほど遠くないと思います。ハイヤー利用のパターンが多いので、セダンやワンボックスカーのハイヤーがあると良いと思います。
- 3) 内容・方法は色々議論されていますが、一番元になるのが資金です。ジオパークに来訪される方々に入場料・参加料をお願いし、その資金で保全・管理していく必要があると思います。
- 4) 地元住民の方々の三好ジオパーク構想の同意 & 周知 & 啓蒙はこの構想の基礎となる部分だと思います。外国人の方々は地元の方々との交流をととても喜ばれます。ジオパークのガイドは東京から来たガイドではなく、地元の方にして頂いてこそ思い出深い訪問になると思います。富裕層の方やツアーの場合は外国語を話す私たち通訳案内士が同行する事が多いので、日本語のガイディングで大丈夫です。ただ専門用語には慣れていないので、時間があれば事前打ち合わせをするか、一般的な用語で、和暦ではなく西暦でご準備頂けると助かります。
- 5) 今はコロナ禍でこの問題は東京でも皆無といって良いほどですが、コロナ前は外国人が多く訪れる観光地ではオーバーツーリズムは大きな問題でした。地元の方々が

通常の生活をするのに支障が出てきてしまったのです。三好市でも将来起こる可能性がある所以对策を考えておいた方がいいと思います。例えば特に大型バスの駐車場の確保、ゴミ箱の設置、英語で書かれた禁止事項の看板等です。

6) 外国人観光客には若い方も多いですが、高齢の方も多く、その中には杖や車いすの方もおいでになります。そういった方々は特にジオサイトでは全てを見学することは出来ませんが、一部でも見られるよう自然破壊、文化財破壊にはならない程度でバリアフリー化して頂けるとより楽しまれると思います。

7) 英語(共通言語)表記(道路標識・食事処のメニュー・宿泊施設の説明文・店舗・禁止事項/危険を知らせる看板)、洋式トイレ、店舗でのクレジットカード導入、食事処でのスプーンとフォークの準備等々。お互いの誤解を生まないように、食事処/宿泊施設の方々やガイド育成時に基本的な日本と外国の文化的、宗教的習慣的違いを知って頂けると役に立つと思います。

受講者 8

一つ目の課題（広報活動） ジオパーク構想・活動のよさを住民が理解できていないのではないのでしょうか。ジオパーク構想を一人ひとりの手元に届けることで読んでもらえると思います。理解できていなくても知っているだけでも目指したいです。試しにダイジェスト版で、少し説明が詳しいのを市報に掲載してみたらどうでしょう！高齢者が多いので、ホームページなどでは見つけづらい。目的や意義、内容などが周知されていない。無関心・他人事というより、知らされていない。のだと思います。もし、読んだら、サポーターになってどんなことをするのか、始めたい人もいます。

二つ目の課題（住民の盛り上がり） 周知できたとして、住民の盛り上がりをどう作るか、ノウハウを知り尽くしていないと、住民からの自然発生のボトムアップは難しい。と思います。今のように、推進室が主体的にリーダーシップをとって行ってほしいです。さらに、「住民の盛り上がりをつくることができる・仕掛け」を作っていくことにも配慮してほしいです。旧山城町は、いろんな団体がボランティア活動に積極的。例えば、ラピス大歩危・大歩危行ってみる会などの活動は、継続的だと思います。池田の旧町内でも活動があると思うが、十分に顕在化できていない。そういうところの掘り起こしが、必要だと思います。

課題を解決するために、自分ができる事があれば・・・正直、自分の力の無さを痛感しています。

一つ目の課題（広報活動）に対して

市内の希望者に限定して、ジオガイドの会として市街地ツアーの無料体験の企画について地域の宝物としての大地・自然・歴史のおもしろさ・良さを体験してもらうツアー体験の機会を作る。合わせて、ジオパーク構想の意義やよさを理解してもらえる機会にすることが肝心で、楽しい・面白い体験と持続可能な地域の存続につながることを肌で感じてもらいます。実感体得した方は、ジオパーク構想を応援したい、進めていこうという気持ちになってもらえると思います。そんな人を一人でも多く増やしていくことが大切です。そこまで感じていただけるツアーができる自信はありませんが、そんなツアーを造ることを目標にする必要があります。

体験した人が次に伝え・広げてくれる大きな広報官の存在になってくれると有難いです。また、ジオガイドの事やジオサポーターの紹介をして、共に活動できることを紹介する機会にもなります。

成功したら、やり方を工夫しながら、定期的に行っていく。・・・ことを考えました。良かったら、定例会の機会に個人の意見として提案して、賛同が得られれば、研修部の取組にして、準備検討して、夏以降、秋か冬に実現できればと思います。具体的には、保険代を、できれば、予算を計上してもらって、私たちはボランティアで行う。通常

通りでないやり方も工夫する。うまくいけば、大歩危ツアーなどにも広げてみる。

現在、大きなプロジェクトとして取り組んでいるラフトジオツアーを確立させ、お客様に満足していただけるものに作っていき、若者にバトンを渡す日が来ることも喫緊の課題であり、やりがいのある取組です。early small successという言葉があるが、これが成功すれば、大きなサクセスとなります。

二つ目の課題（住民の盛り上がり）に対して

住民の盛り上がりをどう作るか、住民の活動団体の把握、活動状況の掘り起こしについてボランティア団体の把握については、社会教育課に問い合わせ見て、活動の状況を調べてみる。その上で、それらの方々の協力を得られるかどうか、どう生かしていくことができるか等、まず、観光協会の方に聞いてみる。商工会議所や関係機関の方との連携ができないか、公民館活動などとも関係して何らかの方策ができないか、活動を試みるきっかけづくりに役に立つよう、皆さんに相談して状況を見ながらがんばってみます。もちろん活動には進んで参加します。

自分ができる事として、立て札一つでも広報になる！ジオパーク活動への誘いかけということで、少しの予算を付けてもらって、ジオサイト等の看板づくり・「手作りでもいい」をしては、どうでしょうか？ 看板を立てたら、「ジオサイト」という文字が目に入る。目立つところにジオサイトの看板を多く建てるといいのではと思います。住民は高齢者が多いので、インターネットでの啓発はとどかないことが考えられます。面白そう、どんなのかなあ、と興味を持ってくれると思います。ジャンパーを着て歩いていると、気に留めて声をかけてもらうことが多いですから。そういう意味で、自分は、ボランティアの活動にもジャンパーを着て参加しています。

☆保全住民グループの立ち上げ

受講者 9

三好市民の理解や協力がどれくらい得られているのかがわかっていないので、的外れかもしれませんが、市外に住む者に三好市の取り組みが知らされていないのは、住民挙げての取り組みではないからではないでしょうか。よそ者を呼び込もうとする熱量が感じられません。

私は熊野古道を何度も歩き、いろいろな場所を訪問しました。大都市からは不便なところですが、そして住んでいるのではないのですが、大変愛着があります。中山道に沿った町もそうです。歩いて宿泊し、地元の皆さんと交流をすることで、どんどん好きになっていきます。すると不便で行くのに時間のかかる場所が身近になってきました。そうするとこれらの地域の話題を出すようになります。よそ者がその地名を声に出すことがジオパークとしての価値を高め、将来につなげていくのだと経験しています。

私のできることは熊野や信濃のように三好を訪ね、三好の名前をことあるごとにあげていくことだと思います。その時に地元の皆さんがよそ者を受け入れて、三好の良さを伝えてくだされば、ジオパークとしての価値は積み重なっていくと考えます。

受講者 10

ジオパークとはジオ（地球・大地）とパーク（公園）と組み合わせた言葉で大地をベースとし、それと関わる生態系や歴史文化などのつながりを通じて。地球を学び、丸ごと楽しむことのできる場所をいう。

三好ジオパークは、主なところは大歩危・小歩危や中央構造線・かずら橋がありますがそれ以外はまだ専門家以外あまり知られてないのではないかと！！多くの人に知っていただき見に来ていただける為には宣伝をする必要がいます。どの様にして広めるのかは、チラシ・雑誌・SNSなどで機会あるごとに発信することが大事です。ジオガイドさんも、県内や県外の方に活動が続けていき知っていただく運動をしましょう。

また、近隣の市町村にもジオパーク構想に参加していただくのも良い事だと思うので、まずは東みよし町から、昨年は東みよし町立歴史民俗資料館でジオパークの展示会が有りましたね。このような模様し物をする事は良いことです。

これからも行政が動くことも大事だが笛を吹いても踊らない市民が、沢山いても困ります。だから官民力を合わせてジオパーク認定を目指して頑張りましょう。

受講者 1 1

三好市の抱える問題を 3 点考えました。1. 少子高齢化に伴う過疎化 2. 歴史的景観の維持の困難（継承者不足） 3. 自然災害との共生

問題 1 については同じ課題を抱える市町村は多いと思いますが、三好市が行ったアンケート（「三好市の現状と課題」

(https://www.miyoshi.i-tokushima.jp/fs/2/1/9/0/5/_/1syoun.pdf に掲載)によると、平成 23 年度の状況なので、現在は数字が違ってくると思いますが、定住希望者は 49.4%、また「豊かな自然に恵まれているまち」と認識する方が 80.7%と地域に愛着を持って暮らしていられる方が多いと思われます。その反面、「働く場・働く機会に不満」をもつ方が 80.9%もいらっしゃいます。今後働く場として有効なのは、やはり現在も人気のある西祖谷地区を中心とした観光面を充実（ただしオーバーツーリズムにならないように）させることではないかと思います。

そのために必要なのは、上記問題 2 にも関わりますが、地元で継承してきたものを受け継ぐ人材、またそれを動画や SNS など現代のツールを使って外に発信・PR する人材、そして現在行われているようなジオパークガイドです。

私はたまたま個人の方が投稿されている祖谷の風景を撮影した動画を見ましたが、とてもすばらしく行ってみたいと思う内容でした。こういうものを公式に町の人の協力も得て作ればいいのではないのでしょうか。また、三好市民でない私なども作成に関してはお手伝いできることがあるのではと思います。

上記問題 3 の自然災害との共生について、既に学校などでは防災の教育をされています。今後もこれまでのような自然災害は起こり得ますが、防災ツール等は進化していくと思います。特にこれからの町を支える子供たちに新しい防災の形について、ジオと共に学んでいってほしいと思います。また自然災害時、報道の仕方によって一部の地域の被害でありながら地域全体がダメージを受けたような印象になることがあります。現地から正しい情報を受け取り、「〇〇地区は通常通り観光できる」といった発信をして地域の風評被害を減らすことが私自身できることではないかと思います。

受講者 1 2

三好市に居住していないので、申し訳ないけれど具体的にはわかりかねている。ひとつ、今回の伊豆大島ジオパークのプレゼンテーションを視聴していて気づいたことを提案したい。

1 こども向け資料をこどもたちと一緒に作る活動を行なう

伊豆大島で小学校 4 年生が「こども向けのジオガイドがないから」と自分でこども向けの資料を作成して掲示されていた。たしかに、おとなとこどもでは知識レベルも興味の度合いも同じではないことに改めて気づいた。こども向けでは伝え方やことばや表現がことなることにきづき、自分でそうした資料を作成した、このこどもは素晴らしいと思う。またその資料をきちんと公共の場に目につくように掲示してあることもすばらしいと思う。

小学校へジオ教室に出向くときに、こどもを対象とした掲示物作成協力を呼びかけることも必要ではないだろうか。または最初から「ジオについて教えるから、こどもにわかるような掲示物をつくってくださいますか？〇〇へ掲示しますから」と呼びかけることも大切ではないだろうか。模造紙のような掲示物や、コピーして配布を想定した A3 から B5 程度の資料など何種類かあってよいと思う。

三好ジオパークについて学んだことを、よそから来るこどもたちにどうすれば、正しくわかりやすく伝わるか、とグループワークとして考えて、実際に資料にまでアウトプットする一連の作業は、それなりの時間数が必要になるが、ジオへの理解を一層深め、表現力や説明力を高める良い機会になると思う。

また作成された資料を観光客や地元の方々の目につきやすいところに、その作成の経緯がわかるものと一緒に掲示すれば、作成にかかわったこどもたちは、自分たちはまだこどもだけれど、自分たちの地域へこどもならではの貢献をしているという達成感を得て自己肯定も高まると思う。もちろん親御さんらご家族も喜ばれると思う。

まずはどこか観光客がよく来訪するジオサイトについて、地元の小学校に協力を依頼してみてもいかがだろうか。またこころよく掲示させてくれるところを探す必要もある。他県からの行き来が歓迎される時期が来れば、そうした活動に参加したいと思う。

受講者 13

講師の殿谷さんご自身の説明によれば、「三好ジオパーク構想としてのジオサイトの保全については、まだ具体的な活動は進んでいない状況」という（三コマ目）。ジオパークの定義を読む限りでは、この点が大きなハンディになりそうに思える。

2コマ目の「活動の変遷」によれば、2017年度にこの事業が始動した様である。ガイド養成講座がスタートしたのが、翌18年度。ガイド上級編ができたのが、更にその翌年で、それを卒業されたお二人が、今回のビデオに講師として登場されている。インバウンドの、全国スルーガイドの業務と、地域密着のガイドとは、大きな差異があるが、前者は旅行社が安心してツアーを任せられるのに、10年かかると言われている。兎に角、人を育てるには、時間がかかる。ガイドには「場数」が必要である。多くのお客様に接し、異なるニーズを知り、もまれる事で成長する。口コミで評判が拡がり、又リピーターを増やす為には、インフラ整備と、人間的な魅力に溢れたガイドさんの育成が欠かせない。

上記を解決する為に自分が出来る事

東京住まいの者にとり、三好は遠く、残念ながらお手伝いできる事には限りがあるが、遠距離であるが故に、客観的に見える事もある筈。この養成講座の様な機会に、アンケート回答等をする事により、何らかのお役に立てる場合もあるのではないかな。全国通訳案内士と、地域のガイドさんは、本来補完しあう関係である。土地勘の無い場所、事前の下見が困難な場合は、旅行社様がスポット的に、学芸員や、土地のガイドさんのサポートを手配してくれる事がある。私達は、その通訳となる。私達がマクロの視点から外国のお客様のより良い理解の為の補足を加え、土地の方が、住んでいなければ知り得ない情報を提供して下さる。この双方からのアプローチが、最大限の良い効果を生む。

微力ながらも「応援団」として、今後もお手伝いさせて頂ければ幸いである。

受講者 14

三好ジオパーク構想の問題点として最大のものは「行政の姿勢」の一言に尽きる。ジオパーク認定のためには「トップダウン」ではなく「ボトムアップ」の活動でなければ認定が難しいのは事実ではあるが、だからといって市民に「丸投げ」では認定に向けてのステップアップは望めない。

というのも、「ボトムアップ」の活動を促すには「仕掛け」が必要である。その「仕掛け」を施すのが行政の責務である。それができていないから、「ジオパークという言葉はよく聞くけど、具体的には何をしてるの？」

という声をよく聞く。

ガイドとして地域を歩いてみると、案内板の老朽化及び未設置が多いことに気づく。また、観光地へのアクセス道の国道の歩道に草が生えている箇所が目につく。当然整備されていない道路にはゴミも放置されてしまう。

地域の人々のボランティアに頼るのではなく行政が予算を組み、整備することが重要である。そして、三好の観光拠点としての「ビジターセンター」の整備も必要に思える。

そんな行政の怠慢の中、自分が何をできるかというと、一つにはツアーのガイドをすることで三好の魅力を知ってもらい、リピーターを増やすこと。そして三好の魅力を知り合いに伝えてもらえるようにしたい。

二つ目は小中学生の出前授業等に協力し、児童生徒から大人たちへとジオパークとは何かを発信できるような力を身につけられるようするサポートすること。

三つ目は三好の魅力やガイドの活動の様子を多くの人々に伝えるための広報活動することなどである。

四つ目はジオパークガイドの活動をこれからも続けるために仲間を増やすことが必要になる。そのためには自分自身が「楽しい」と思える活動をしていくことが大切だと思う。

受講者 15

- ① ジオパーク構想の中心となる自然環境の保全保護が次第に困難になる傾向があること。
- ② その自然環境を維持しようとする人間の意気込みや熱意の形成が徐々に困難になりつつあること。

という2つ課題があると認識している。

ジオパークとして保全保護すべきサイトの維持費用の増加については、国の或いは地域の税金で賄うことには限度がある。志ある支持者・団体の寄付などの金銭的支援も必要だと考える。更に資金的な背景に加えて、地域の歴史、文化を学び伝承する若い世代の人口が減ってきていることも理由の一つとしてあると思う。やはり地域で生まれ育った方達が祖父母、父母から受け継いでこられたもの、或いは地域として久遠の昔から伝承してきた文化を引き継ぎ次の世代に繋いで行く取り組みが大切だと思う。その意味で今回のジオパークガイド養成講座のように現存する情報を取り纏めて伝達可能にし、関係者で広く共有してゆくことは活動のすそ野を広げて行く上で意義があると思う。講師を務めていただいた皆様は三好市の良さを伝える熱意を持った方々だと感じた。加えて地元の方々だけではなく他地域の人でも活動に共感する人幅広く募って輪を広げて行くことが重要だと強く感ずる。地質学的な遺産の伝承も人文科学的な文化歴史遺産の伝承もそれを理解し次の世代に伝えて行こうという積極的な取り組みと熱意が重要だと思う。そういう地域を愛する「ファン」を多く育てて行くことが重要である。その為に自分に何ができるかを積極的に考えて行きたいと思う。大げさな大義名分ではなく、まずは自分が興味を持って接すること、そして少しでも得意分野があれば三好市地域の自然文化歴史をその視点から紐解いて勉強する等のことからスタートすれば良いと思う。重要なのは三好市地域に暮らしておられる地元の方々との相互方向のコミュニケーションの維持であると思う。①地域に関わっていくこと、②興味のあることは積極的に学ぶ、わからないことは質問してみる、③できれば現地を訪問してみる、この3つのアクションが重要である。特別なことではなく地域を愛すること、環境の変化に興味を持つこと、そして地域の方々に関りを持って行くことが重要と心得ている。

受講者 16

三好ジオパーク構想が現在抱える問題は、地域の急激な人口減少や少子高齢化によって、構想を推し進める地元の担い手が不足していることだと推察します。構想を実現するには、地元住民の参画はもちろんですが、他にも地質学者、行政の担当者、ITの専門家、観光業者など、幅広い分野のスペシャリストが必要だと思います。また人を案内する仕事には客観的な視点が不可欠ですから、必ずしも地元出身者にこだわる必要はないと思います。今回のオンライン講座で集まった受講者をサポーターとしてぜひ活用されたらよいと思います。Zoomを使えば意見交換もできますし、他のジオパーク事例の調査や、観光面での企画打ち合わせ、日々の事務作業、資料の翻訳など、離れていてもできる仕事はぜひ担わせていただけたら幸いです。

もう1点課題として、全国的な知名度を上げることが必要だと思います。

三好市は関西圏では古くから知られているようですが、関東圏では祖谷のかずら橋や大歩危小歩危、ひの字溪谷などを知っている人は少なく、四国地方についても、知られているのはお遍路さん、道後温泉、金刀比羅宮、四万十川くらいで実際に行ったことがある人はまだまだ少ないです。しかし距離的にずっと離れた沖縄には毎年多くの人が訪れます。これは情報量の違いによるところが大きいように思います。東京であれば、徳島や四国のアンテナショップや都庁内の全国各地観光案内所、あるいは主要駅や空港などの観光案内所にチラシやパンフレットを置いて宣伝するのも大いに効果的だと思います。また、コロナ禍終息後、インバウンド事業が再開すれば、海外からの観光客が戻ってきますから、通訳ガイドとして、三好市をご紹介すること、直接お客様をご案内する機会も増えるでしょう。直島や足立美術館など、海外で評価されたことから一気に人気に火が付いた事例はいくつもありますから、三好市への集客に直接的に関われると思います。

受講者 17

他地域での認知度が課題と思います。平成の大合併の影響で無理も無いことですが、市の名前を聞いても聞いたことがない、場所もピンと来ないところが多々あります。私自身は広島県出身ですし、四国は気持ちは近いと思っています。しかし一昨年友人に会いに愛媛県と香川県に行ったのですが、隣がどういう所かはわかっていても、三好市の市名は知らなかったほどです。

設問1にも書いたことと重なりますが、仕事中でもプライベートでの仲間との自然観察中でも、自分がまず広告塔の役割を果たすことです。

また、何かこちらで発見があったら、そちらにお知らせすることも大事と思いました。例えば、埼玉県滑川町にある森林公園に中央構造線についての看板が新しく去年できました。岩石の違いなど書いてありますが、やはりここに本当にあるのかとわかりにくいですし、中央構造線も知らないと思います。ですから、パンフレットに四国の中央構造線の特徴がよくわかる顕著な写真などをのせてもらおうと良いと思います。森林公園には年に何回か行きますので、わかりやすい看板の設置とともにパンフレットの改訂時に変更をお願いしようと思います。

また、中央構造線上にあるとされる東松山市、吉見町の知り合いを通して話してみようと思います。以前住んでいたところですが、今でも歩きに行っており、ウォーキングセンターに三好市のパンフレットを置いてもらえないか、聞いてみます。全国のウォーキングイベントのパンフレットは置いてあるので、良い場所だと思います。ウォーカーは自然観察好きです。歴史好きです。

東松山市は特に年に一度スリーデーマーチがあるので、全国のジオパークの案内を出すのも良いかと思います。三日間のウォーキングの国際イベントなので、全国から海外からもウォーカーがやってきます。その出展者として三好市が出せなくとも、ジオパーク候補地としてパンフレットくらいは置いてもらえるのではないのでしょうか？ 長瀬の自然博物館に寄った際にも、日本各地のジオパーク関連各地と中央構造線についての説明文や写真を掲示することをリクエストしてみます。

受講者 18

現在の三好ジオパーク構想の問題は推進協議会の人たちが業務として仕事をしているようにしか見えないところです。ジオパークの仕事はもっと市民に近い所で仕事をしてほしいです。例えば、ジオガイドが新しいツアーを企画しても参加するのを見たことがない。

先日、隣町の東みよし町で開催したジオパークパネル展示会を開催した時に推進室の方が見えたということは聞いたことがありません。ジオガイドの定例会に参加してガイドの会がどんな問題があるのか、それを一緒に考えて解決するとか、もっと近くで見守ってほしいと思います。

ガイドに対しても推進室からこうしてほしいというような注文を出すなどしてもっと近くで一緒に推進活動ができると良いと思います。ジオガイドの練習会など見学されることもなくとても孤立しているように感じます。もっと一緒になってジオパーク推進活動を楽しく実行しましょう。

市民の間にジオパーク推進の機運が高まっていないように思います。市民はジオパークという言葉は聞いたことがあるという程度のことで、自分たちが活動に参加するなどとは思っている人が少ないと思います。これまでの広報ではジオパークとは何か、三好ジオパーク構想エリアにはどんなジオサイトがあるか程度のことは知っている人はかなりいると思うが、市民に浸透しているとは思えません。隣町の東みよし町で開催したジオパークパネル展示会を開催した後、三好市内のどこでもパネル展示会は開かれていませんし、開催予定も聞いていません。こんなことでジオパークの推進ができるのでしょうか？

基本計画を作るのも部会を開くのも大切ですが、推進プロジェクトはもっとエネルギーを注ぎこまなければならない事柄です。人手が足りなければ手伝ってほしいと言って欲しいと思います。

一緒にプロジェクトを推進しているという感覚が持てないのです。

受講者 19

三好市は、大歩危小歩危などの景勝地を抱え、他のジオパークより比較的恵まれた立場にあると思います。文化的にも、たばこ産業が隆盛を誇る時期に建てられたうだつの上がる家並み等の保存地区があり、他にはない魅力を持つところだと思います。これらを十分に活用するためには、文化的な背景を知らせる博物館や民俗館が必要でしょう。そこでも五感を刺激する展示に重点をおくべきです。自分がジオガイドとして何ができるかという問いには、ガイディングでお連れする人たちが何を知りたがっているのか、そのグループにより求められているものを見極め、それらを提供することができるようになりたいです。

受講者 20

詳しいことは分からないですし、的外れなことを言ってるかもしれませんが、自分なりの考えを4つほど述べても見たいと思います。

一つ目は、「持続可能な地域づくり」ということですが、今全国で言われている少子高齢化や限界集落、消滅集落など特に三好市では顕著な傾向にあると思います。いかに後継者をつくり、地域を存続させていくかという問題です。しかし、これは個人ではなく国や行政、地域全体の問題だと思います。地方では、若者の働く場所少なく都会へ流失している問題で、企業の工場を地方に分散してもらったり、米の値段を上げて米作りによって、地元で生活が成り立っていけるような政策ができないものかと個人的には思います。ジオパーク活動を通じて経済が活発となりそれによって生活が成り立っていければ一番良いと思いますが、これからの課題だと思います。

二つ目は、ジオパークサイトの活用と保全の問題があるかだと思います。観光ツーリズムでの活用として、まだまだ発信力が必要だと思いますし、観光の目玉商品の企画や開発も必要だと思います。そして、観光地やジオサイトの看板などの充実も必要です。また、それにとまなうガイドの養成も大切だと思います。

三つ目の問題として、教育プログラムの確立と地域のジオパークへの盛り上がりが必要かだと思います。学校教育では、今ジオ活動は学校単位や単年度で行われていますが、これを、行政から教育委員会で学校の教育の一環として防災教育とともに、持続的に取り組んで行くことをしたらいいと思います。小さいころより地域の魅力を知っていれば、将来、故郷を離れることがあっても、地元愛に繋がって行くと思います。また、地域住民の方にも、自然災害やジオサイトの魅力を発信し、気付いてもらうことにより、地元を誇りに思ってもらい地元愛を育んでもらえると思います。そうすることで、ジオパークに関心を持ち応援してくれる土壌が出来て盛り上がりも出てくるのではと思います。

四つ目の問題として、三野町の飛び地と東みよし町との連携問題があると思います。これも、行政や地元地域としての難しい問題だと思います。隣町にもジオパークに関心を持たれている人も沢山いらっしゃると思います。そういった関係者との繋がりを深くして、草の根から盛り上げて行く活動も大切かとも思います。

上記のことがらについて、自分が協力できることは、積極的に取り組んで行きたいと思っています。

受講者 2 1

- 1) 内陸に位置する三好は海に面していない⇒島国である日本列島の代表的な海の景観とコラボすれば、動く大地が創った地形の特徴をさらにアピールできるのではないか？

日本で 4 番目に大きい島である四国全体でジオを捉えると、三好の大地の成り立ちとそれに付随して育まれた生態系や歴史文化を大きな目線から眺め、魅力を倍増することができると思う。具体的には、世界ジオパーク指定の室戸・日本ジオパーク指定の四国西予と一緒に大地の動きを見ること。海の景観は日本列島特有のもので景色として美しく印象に残りやすいので、四国全体から見て大地の動きは海岸ではこのような変化・内陸ではこのような変化をもたらしたと対比させることで、人々の関心を引くことができると思う。そのためには室戸や四国西予との連携体制を作るべきだと思う。

- 2) 紹介できる食文化が少ない⇒ツーリズムの観点からすると旅の大きな楽しみの一つはその土地特有の飲食物を味わえることにあるので、ジオと関わりのある食物を調査し、訪問者に提供できるよう開発していくとよいと思う。

山間傾斜地産の蕎麦の他、こんにゃくや茶を使った郷土料理・スイーツなどや、池田地方の酒蔵産の酒粕や酒を使った料理やスイーツなどを開発していくのも、若者世代に任せると新しいアイデアが期待できるのではないのでしょうか。酒蔵見学や藍作など工芸品体験にもつなげていけると思う。

- 3) ジオの説明には難しい専門用語が多く、とっつきにくい⇒学習活動・看板・パンフレットなどで表示する際、子供にもわかりやすい言葉で代用できないか？

ふりがなをふったり、イラストなど取り入れて視覚的に理解しやすい工夫がされるといいと思う。

受講者 2 2

日本各地のジオパーク構想も同様な問題、課題を抱えていると想像するが、通常の観光地とは異なり、自然を相手に岩、植物、海岸、山、川、谷といった、どちらかと言えば、そういう地球の古代からの遺跡に近いものとか、自然環境を味わうとか、自然保護に興味を持つ自然愛好家のような特殊な人達の関心分野なので、興味のある人は、熱心に全国のジオパークツアーに類するものに参加してくれるが、そんなに関心の無い人にとっては、辺鄙な場所とか、山、谷といった少し足場が悪く、危険な場所に出かけることが無い。

より多くの人に如何にジオパークに関心を持ってもらい、ジオパークツアーに参加してもらうことにより自然の大切さ、私達は自然があるから生きていけるし、自然に私達が守られていることが判る。

ジオパークがより多くの人達に認識してもらえたら、次に、ジオパークを今後も永続的に育成、保護していくよう努力する必要がある。ジオパークは、自然環境に関するものだから人的に保護していく必要は無く、自然は自然に任せるという考え方もあるが、何もしなくて自然環境が自然の営みにより破壊される場合もあり、そうならないように、人が修復してより長く自然環境を保護できるのであれば保護していくことは大事と思う。

保護にはある程度資金が必要で、保護の為に資金集めには、ジオパークに来た人たちに、ガイド料、特産品、絵葉書、レストランでの食事、喫茶、温泉があれば入浴料、個人的には寄付活動は嫌いで、上記の販売等で資金を集めるのがベストと思う。その為に、いかに上手に資金を集めるか、企画に参画したい。

受講者 2 3

一人でも多くの人に関心を持っていただき、それぞれの分野で継続的に気軽に活動できるような仕組みになればいいと思います。

受講者 2 4

課題があるとすれば、もしかしたら知名度があまり高くないことのように思えます。知名度を上げるための方法はいくつもあると思います。広報や PR の領域に当たると思いますので、受講生からの課題のフィードバックでは限界があるので、有識者を交えて、今後の戦略や対策について検討していくことも一つの方法としてあげられると思いました。

ジオパークという言葉や意味についても、もっと多くの方に知っていただけるような活動があればいいように思いました。私の知人の多くも、ジオパークという言葉は聞いたことがあるけれど、その実態を詳しく知っている方は皆無です。どこかにある公園という認識の方が多くないように思います。世界遺産のように、世界中に存在している素晴らしい地球の資源であり地球の歴史を見ることができるという点も含めて、広報は継続していかれるのがいいのではと考えています。

受講者 25

三好ジオパーク構想の課題は、三好市だけでなく東みよし町の参加も必須です。大地は三好市もは東みよし町も同じであり、分けて考えることはできません。私ができるのは、東みよし町の人にジオパーク構想について伝えること、東みよし町と三好市に住民の声として届けることです。

高齢化に伴い、建物、伝承、暮らしなどが消滅しています。貴重な資料が風化したり破棄される、先人の知恵や体験が受け継がれることなく消滅しています。山々の集落に出向き、聞き取りや現地調査をすれば、まだ貴重な情報が得られると思います。集落に人が住んでいなければ、介護施設などに出向けば、高齢者が集まっているので、様々な情報が入手しやすいかもしれません。（現在は、新型コロナウイルス対策のため面会制限がありできません）

ジオパーク内の保全が不十分です。ジオサイト、ナチュラルサイト、カルチュラルサイトの表示や保全が不十分なため、アクセス方法がわかりにくい、訪問しても景色を十分見ることができない、説明の案内板などが無い。観光に訪れた人がそこをサイトと認識できるような工夫があるか。経験として、3年前11月下旬、三野町太刀野山に行く機会があり、偶然道路わきに草を被った「8枚なべら」の看板を見つけ、入ってみました。道は、草に覆われわからず水の音を頼りに進み、落ちそうな橋を見つけ、斜面や岩をのぼり息をのむような景色を見ることができました。景色をみたい一心で谷の奥に向かいましたが、帰りは藪の中で道を見失ったり転落の危険もあり遭難しても誰にも見つけてもらえない恐怖を感じつつ戻りました。もう一度行きたいが、斧や鎌がないと危ないと思いひとりでは行けません。大歩危遊歩道の保全作業にも参加しましたが、このような場所の掘り起こし（共有）と人が必要だと思いました。

ジオパーク構想として推進室がありますが、活動の中でボランティアとして参加するもの、業務として行うものがうやむやになっている気がします。

受講者 26

まず、ジオパーク構想を県内外の多くの人に知ってもらうことが一番重要だと思いますが、徳島県も三好市も発信が全く足りないと思います。例えば、昨年世間を席卷した『鬼滅の刃』のアニメスタジオ ufotable が徳島市にあることを知っている人はどのくらいいるのでしょうか？北九州や奈良など各地が少しでも関連を見つけて観光客誘致に成功しているのに非常にもどかしい思いです。県、市などが縦割り行政で連携がとれていないという感が非常にあります。発信力が弱いというのが一番の問題点ではないでしょうか。

サイトにしても、「三好 観光」として検索したらまず出てくるのが、三好市公式大歩危祖谷ナビ <https://miyoshi-tourism.jp/> ですが、下方にスクロールしてリンクを見てもジオパーク構想のページのある「まるごと三好観光ポータルメディア」<https://miyoshi-city.jp/> は出てきません。「三好 ジオパーク」と検索してやっと「まるごと三好観光ポータルメディア」が出てくるのですが、ポータルメディアと銘打っているのに、「三好 観光」ででてこないばかりか大歩危祖谷ナビにもリンクしていないのは非常に問題があると思います。これではポータルサイトの意味がないと思います。三好にジオパーク構想があるという事をたくさんの人に周知しなければいけない段階なのだから、もっといっぱいリンクを貼るべきだと思います。

次に、祖谷地方を積極的に開発しているアレックスカー氏と連携されているのかどうか気になります。カー氏のやり方について賛否両論あると思いますが、実際の機動力、欧米からまた国内からの誘致力、発信力はやはり実績があり、この地方は彼を抜きにして語ることはできないと思います。

また、ラフティングや平家の落人伝説集落とももっと連携したらいいと思います。今やラフティングでは世界的な知名度がありますが、このラフティングが出来るのもジオサイトのユニークな地形があってこそです。。

個人的には、平家の落人が水主村（東かがわ市）にしばらく潜伏したのち、「大山（阿讃山脈）を越えて、吉野川沿いをさかのぼり、寒峰を越えて山深い祖谷に入った」というルートが非常に興味深いです。どのあたりから吉野川を離れて寒峰に入ったのか、その足跡をたどるようなユニークなツアーなど、この地でしか味わえないツアーの構築も必要だと思います。

そのために自分が経験してきたインバウンドツアーのノウハウをお伝えできたらと思います。

受講者 27

問題・課題としては「三好市の集客力と知名度」ではないでしょうか？「三好」という地名は全国に沢山あり、合併して誕生したのも 2006 年とまだ新しい三好市はどこにあるのかわからないという人は多いでしょう。

雪深い山のリモートの地にある「合掌造り」や精錬所しか無かった島に人工的に造られた「アート・プロジェクト」は、今では沢山の人が訪れています。駐車場はバスであふれ、フェリーボートは定員以上乗ってもあふれ、宿泊施設は足りません。三好市にはジオ的・歴史的・文化的素材が沢山あります。谷間をゆっくりと移動していく早朝の霧、溪谷をくねって流れる川、雉・鹿・ニホンカモシカといった野生の動物、祖谷そば・お茶・昔の葉タバコ栽培と刻みタバコ産業・かずら橋・池田断層（中央構造線）・池田湖・大歩危小歩危の地形・山城（やまじろ）等々お客様に見せるべき・味わってもらうべき・語るべきものは無数にあり、「合掌造り」・「アート・プロジェクト」サイトより内容は充実しています。三好市は一体何がちがうのでしょうか？お客様はほとんど通過してしまっていて滞在しないお客様から判断すると、問題点の一部は以下の(1)～(3)ではないだろうか？

(1) 三好エリアの魅力に関する情報の発信は十分か？

(2) 魅力に関する情報は国内・国外のメディアや旅行社に伝わっているか？

(3) 平地の多い池田町での宿泊施設は足りているか？

1985 年に三宅直島町長とベネッセの福武社長の間で「アート・プロジェクト」のプランが話し合われた時、「アート・プロジェクト？何だ、それ？そんなものつくっても人は来ないよ！」「そのプロジェクトの前のプロジェクトで失敗したじゃないか！馬鹿な！」。と過疎化の進んだ島の島民は思っていました。アート・プロジェクトが少しずつ規模を拡大し観光客が増加してきた現在では、島の人たちは個人でレストランや喫茶店・小さいホテルや民宿・レンタサイクルショップ・お土産屋さん等を経営し始めています。かつては小さくて古いフェリーしか持たなかった「四国汽船」は、大きくてきれいなフェリーボートを運航し、海上タクシーも運航しています。現在では、直島町とベネッセの相乗効果が出てきています。1992 年から島に何が起こりどのように変化発展してきたのかを調べれば、「三好ジオパーク構想」の課題解決の糸口になるかと思います。

＜私のできること＞

私の仕事はガイドです。ジオの語り部となって、「三好ジオパークサイト」の隅から隅まで語り尽くし、訪れてくる国内外のお客様に満足していただき感動していただくことです。そして三好エリアに国内外のお客様をご案内することです。